

概 要 報 告

実施期日	7月28日(火)【午前】
部 会 名	小学校 道德部会

テーマ 『よりよく生きる心を育てよう ～一つの教材を通して見えてきたのも～』

提案概要

道德の時間をどのように進めていけばよいか。「価値の押しつけ」にならず、「自ら考え、自分の考え・価値観を見つめ、多様な価値観に触れる時間」となるためにはどうすればよいだろうかということを悩みながら、市教育研究会道德部全員で試行錯誤を重ね、研究を行ってきた。

○主題設定の理由 … 様々な友だちとの関わりの中から、相手の立場に立って考えたり、気持ちを想像したりする力が他人を思いやるだけでなく、自己の道徳的価値と比べ、振り返り、よりよく生きる心を育てられるのではというところから、テーマを設定した。

○資料について … 資料は、児童が身近な問題としてとらえ、自分自身の問題として考えやすいもの。意見交流を活発に行え、様々な価値に触れあえるもの。価値に迫るために様々なアプローチが工夫できるものとして、「絵葉書と切手」という読み物資料を選定した。

○ワークショップ

実際に、「絵葉書と切手」を読み、自分だったらどうか、ということを先生方に考えてもらい、一人ひとりがワークシートに理由を書き、挙手をして意見を発表してもらった活動をした。そして、そこから見えてくる問題を考え、研究を深めて行った課程を説明した。

○実践の概要

資料の活用の仕方や発問、友達との意見交流の工夫などを部会で検討しながら、三回の研究授業を行った。一つの教材を通して研究することで、資料への理解を深め、授業展開の工夫やそれによる児童の変容を研究した。また、研究授業者以外にも、同じ資料を用いて授業を行い、児童の様子や気づいたことを共有し、研究を深めていった。

○成果と課題

〈成果〉

- ・ 意思表示カードを用いて話し合いをすることで、自分の立場を明確にし、相手に自分の意見や考えを伝える手助けになった。また、様々な意見を出し合い、話し合いが深まり、多様な価値観に触れさせることができた。
- ・ 話し合うだけでなく、実際に資料の登場人物と同じ活動を行うことで、自分が登場人物の立場ならどうするだろうか、自分自身の問題として考えて取り組むことができた。
- ・ 資料に登場する情景を写真や絵で見せたり、板書を工夫して情報を整理したりすることで、児童が資料の流れや内容を理解しやすくなった。また、児童の興味関心に繋げることもできた。
- ・ 児童が多様な価値観に触れられるように、児童同士の意見交流の時間を多く確保する必要がある。児童が資料の内容を理解しやすいように工夫したり、その資料に関する事前授業を行ったりすることで、話し合いのための時間を確保することができた。
- ・ 資料のねらいを工夫することで、児童の多様な価値観を引き出し、「相手のことを思いやる気持ち」が大切であることに気付かせることができた。
- ・ 道德部員同士で教材や資料を共有し、検討し合ったことで、児童の成果や課題、児童の考えを深めるための工夫の仕方を詳しく話し合うことができた。

〈課題〉

- ・ 児童が自分とは違った価値観に触れられるように、全体での共有時間を増やしたり、意見を交流し合ったりする時間をさらに確保できるように、授業展開を今後も考えていく必要がある。
- ・ 児童同士で意見交流を行ったことで、自身の考えを見つめ直し、意見を変更する児童の姿が見られた。児童の考えをさらに深めるために、「どうして自分の意見を変えることにしたのか」「どこで迷っているのか」と、児童の考えにもう一步踏み込めるような工夫を考えていく必要がある。

研究協議概要

◆協議の柱

①意思表示カードを活用して意見交換をしてみたの気づきや感想。

②ねらいとする価値について自分自身の問題としてとらえ、自己を振り返らせるための授業展開の工夫や話し合いを深め、多様な価値観を引き出すための工夫。

2つの柱において、約5名の6グループに分かれて協議を行った。そして各グループで話し合われたことをまとめ、発表し、共有化を図った。

<協議の柱①について>

- ・意思を白黒はっきりさせなくていいのが良い。3つあることで、意思表示が難しい子の助けになる。また、複雑な気持ちも2：8や4：6などで表せるところも良い。
- ・素材をさらに考え、長く使える物にしても良いし、他教科でも使えそうである。
- ・相手も自分もわかりやすいが、全体が見えるので、友だちに流される可能性もあるのではないかな。
- ・意思表示カードが3種類あることで進みづらさもでてくるのではないかな。
- ・分かりやすくするために、色だけでなく、文字も書いてあると良い。
- ・手元にあると、操作しやすいが、どこでその子の意見が変わったのかが分かりにくい。

<協議の柱②について>

- ・友だちとの違いを認めてから授業をすることが必要。また、自分事として考えさせるために、劇やペープサートなども活用できる。現代の問題となっている、メールやLINEの教材や資料を探して実践することも考えられる。
- ・クラスの実態把握が大切。何を大切にしていくのか、教師の倫理観も必要となる。
- ・近すぎず、遠すぎない教材選定が大切。評価も難しく、今後教科化されるのが心配。
- ・その場限りにならず、生活の中で持続させ、日々の生活で実践していけるような道徳にしていきたい。
- ・外国籍の児童に、文化の違いもあるため、どの程度話をすれば良いのか悩む。
- ・「なぜ伝えるのか・伝えないのか」の理由を話し合わせるのも良いのではないかな。
- ・正子の気持ちの方に持っていきやり方や、正子の気持ちがある資料でもおもしろい。
- ・子どもたちの声から授業のまとめにすることができ、それをクラスに掲示する「道徳コーナー」があっても良い。
- ・正しいことを本当にできるか、できているかのバロメーターの活用も考えられる。

まとめ概要

- ・今回の提案は、各校でも同じ資料を使い、同じ視点で教材研究をし、それぞれが成果や課題を共有することができた。個人ではなく、学校の垣根を越えて、市内全校で研究してきたことに成果がある。
- ・主題設定の理由に、ねらいとする道徳的価値をより深く捉えられるような道徳の時間の構成が必要とあるが、そのためには、道徳的価値の理解のみに終始するのではなく、自分自身との関わりで考えられるようにすることが大切。
- ・資料選定には、ねらいとする道徳的価値をしっかり定めること、ねらいと資料の妥当性を考えることも重要。
- ・三回授業を重ねる中での成果として、子どもたちが、言いにくいことを伝えることの難しさを実感し、伝えるとしても、伝え方や伝える場面などを考えることで、将来同じような状況や場面に出会ったときに、よりよい行為を実践できる「道徳的実践力」の育成につながり、それこそが道徳の時間が目指すものである。
- ・ますます道徳教育の充実が注目される場所だが、ねらいの達成に向けて言語活動や多様な表現活動を通じ、体験や経験を生かしながら児童に考えさせる授業を重視することや、道徳性を養うことが最終目標であることは変わらない。
- ・先生方の三回の授業のリレーで、改善されていき、より良いものができた。
- ・道徳の授業は、子どもが当事者になることがスタートであり、子どもの引き出しを多く作ることが大切。そして、それを実践していけるようになるといい。引き出しが多いことで、豊かに生きていく、よりよく生きる心をつくることができる。
- ・道徳の授業をする前に、教師としてではなく、一人の人として身近な人といろいろな価値を高めることが大切。また、学級経営の中で、教師自身ができているかを確認することも大切である。